

## 目的

地域外の人材や団体と協働で実施する地域活性化や地域課題の解決に資する取組を支援することにより、新たな地域の担い手創出を図る

## 事業内容

(1) **事業主体** : 住民主体の地域づくりに取り組む組織（具体例：地域運営組織、ビレッジプラン実践組織、地域が立ち上げたNPO等）  
※市町村全域を活動範囲とする組織等を除く

(2) **対象事業**

- ・事業主体と地域外の人材・団体が、協働して実施する地域活性化や地域課題の解決を図る取組
- ・事業主体と地域外の人材・団体が、定期的に交流する、または継続的に繋がりを持つことができる取組 等

<具体例>

- 中間支援組織にコーディネーターを委託して行う、地域おこし協力隊や集落支援員を活用するための地域の話し合い
- 関係人口の受け入れに向けた地域の勉強会
- 大学生による地域課題解決に資する取組・フィールドワークや高校生による地域資源活用に向けたまちあるき・ワークショップ
- 地域外の子民を対象として年に複数回行われる農業体験（田植え、草取り、稲刈り等）

(3) **補助率・補助上限額** : ●補助率：2分の1以内 ●補助上限額：200千円

(4) **採択数** : 10件程度（採択数は予算の範囲内で決定する）

## 留意点

- **地域の新たな担い手確保のため、地域外の子民と協働・交流する**ことが明確な事業であることが必要であること。  
(近隣の地域・自治会等間で相互にイベントに参加するといった事業は対象外)
- 単発のイベントを実施する場合は、「一度で終わり」とならないよう、その後のフォローなど継続的な関係構築が図られる事業であること。  
(特定のイベント実施が主目的となる団体や継続性が同一イベントの毎年開催のみといった事業は対象外)
- 事業の「新規性」は要件としないが「新規事業」を優先的に採択する。(ただし同一事業への支援は1回のみ)
- 他の県補助事業との併用は認めないが、県以外の補助事業との併用は可

## スケジュール（予定）

4月下旬～5月下旬 募集

6月上旬～2月末 交付決定、事業実施

# 高根フロンティアクラブ

基本情報	
活動地域 (人口・世帯数)	村上市高根区(515人148世帯)
実施期間	令和7年6月～
地域外人材・団体	新潟大学・村上総合病院研修医
活動概要	大学生が地域の子ども若者と協働しプロジェクトの企画運営する中で、地域の課題解決と実践型の人材育成に取り組む。

取組の内容	
<p>●新潟大学学生と高根の子ども若者による高根の課題解決と地域豊穰化を目指す協働プロジェクトを企画実施する。地域の魅力発掘から企画のアイデア出し、準備、運営を共に行い、地域活動の実践を通して人材育成につなげた。</p> <p>①たかね夏ゼミ（子育て支援・教育） 日時：2025年8月5～8日9時～17時 会場：ゲストハウス瑞泉閣 内容：夏休みの期間中、空き家を活用したゲストハウス瑞泉閣を会場として学習機会の提供と、プロジェクト企画アイデア出しや準備を行った。</p> <p>②クリスマス大作戦（高齢者見守り・子育て支援・人材育成） 日時：2025年12月7日（日）9時～12時 12月21日（日）13時～18時 会場：高根集落内・高根区民会館 内容：高根全戸へ親子サンタと学生たちがオリジナル高根思い出カレンダーと干支手形アートをプレゼント配布し、高齢者見守りと地域内外交流促進の機会とする。内容については夏ゼミで学生と子どもたちが企画検討し、それを実践することでやりがいと人材育成につなげた。</p>	

取組のきっかけ（地域課題等）と目的	
<p>【地域の現状と課題】 人口減少・人材流出が大きな課題となっている。顔の見える助け合い支え合いの関係性や伝統の知恵技が失われつつある。子どもの人数減少により地域住民と子どもたちとの交流も減少し、郷土愛醸成が喫緊の課題である。</p> <p>【目的・目指す姿】 ①地域内外多世代の交流促進と地域活動の担い手確保 ②大学生と地域住民の協働プロジェクトによる人材育成と地域の魅力発信</p>	

取組の成果	
<p>①たかね夏ゼミ 延べ参加者：子ども58名・学生34名 学習+aで遊びも含め学生たちと小中学生が交流した。村上病院研修医による医療体験WSや郷土料理教室、クリスマス企画会議、お菓子調理実習など多世代交流も図り学びの場を設けた。豪雨・倒木による停電の中、子どもが家に一人であることを避けられ安心感にもつながった。</p> <p>②クリスマス大作戦 地域内親子17組46名・学生9名・他地域外3名・地域内18名 合計76名が参加 親子学生サンタの全戸訪問によりとても活気づいた。皆で共同製作した高根カルタがパーティで披露され郷土愛醸成や地域の魅力再発見にもつながった。</p>	

今後の展望と課題	
<p>・大学生が子どもたちと主体的に関わり、企画づくりから実践までを担う中で、地域での役割を考え、学生自身も挑戦、成長していく姿が見られ、学生たちが地域活動の担い手として大きな力になると実感できた。継続的に通いながら、それぞれの興味関心に合わせた形で、また地域活動に参画していけるような受入れ体制を整えていきたい。</p> <p>・単なるイベント手伝いではなく、子どもたちには学び・高齢者の生きがいやりがい・学生の人材育成につながるような活動の仕掛けを増やしていきたい。</p>	



<夏ゼミ内生きることを考えるWS>



<親子学生サンタ一同>



<高齢者も子どもも笑顔の一日>

# 今町町部地区まちなかコミュニティ

地域  
政策

NIIGATA

## 基本情報

【活動地域（人口・世帯数）】

見附市今町町部地区（6,689人・2,693世帯）

【実施期間】

令和7年6月～

【活動概要】

既存の店舗や空き店舗の一角において、地域外の事業者（ハンドメイド作家や菓子店など）が入り「ショッピングinショップ」としてその日限りの合同営業を行うことで、来場者が既存店舗を訪れるきっかけを作り、賑わいの創出に寄与するものである。地域住民のみならず、他地域からも広く集客を狙うことで、商店街の活性化の一助とする。

## 取組のきっかけ（地域課題等）と目的

【地域の現状と課題】

今町商店街は、店舗数の減少や店舗同士が協力して行っていた連合会がR7.6月末をもって解散したことから、今後更に商店街のつながりが薄れてしまうことが危惧されており、店舗同士が関わり協力する機会を作ることが当該地区にとって必要となっている。過去には商店街の複数店舗が協力して主催していたバザールも行われていたが、新型コロナの流行以降、店舗の減少と店主の高齢化により実施されなくなり、商店街に活気生まれるイベントが減っている。

【目的・目指す姿】

地区内にある今町商店街を舞台にしたまちあるきのイベントである「今町商店街まちあるきマルシェ」を実施しており、世代を超えた人々の交流の場を創出することやまちを歩く中で、地域の魅力を知ってもらうことを目的としている。

## 取組の内容

●既存店舗や空き店舗で、地域外の出店者が同時に営業する「ショッピングinショップ」という形を取ることで、地域内外からの集客を得る。そのような中で、今町の伝統が残る既存店舗（明治創業の麴から自店で製造している味噌店や明治後期創業の老舗菓子舗等々）や新しくできたカフェ、地元民に愛される焼肉店などを来場者に知ってもらうことで、今町商店街への継続した集客につなげる。

●今町商店街の徒歩圏内に位置する観光スポット“道の駅パティオにいがた”との連携を今年度から実施することで、当該事業の参加者増加を狙う。道の駅には年間100万人以上の来館者があることから、その集客力を生かし来館者を今町商店街へ誘導するとともに、運営主体の事業者からも協力を得て、連携した取組を実施する。

●長岡造形大学の学生による来場者参加型のコンテンツを行うことで、来場者と商店街のつながりが生まれるような取組を実施する。また、若く新しい知見を得ることで、今後の事業の質を継続して高めていくための足掛かりとする。

●地元中学生から協力してもらう場面を設定することで、地元愛を醸成すると共に、地域と関わる機会を創出する。

【地域外人材・団体】 地域外の事業者

長岡造形大学大学院造形研究科

三条市立大学UNIBOX（ゲーム製作サークル）

見附市地域おこし協力隊

道の駅パティオにいがた（健幸めつけ）

新潟工科大学学生

## 取組の成果

●昨年度33ブース（出店者）から今年度は40ブース（出店者）へ増加しており、地域外の事業者との交流を通じて新たな事業や取り組みへの意欲を創出することができた。また、来場者数については今年度見附市よりパステータ（人流）の提供を得たところ、通常45倍から90倍の人流数となっている。来場者数については昨年度1.1倍の1,100名程度と予測できる。更に、企画段階からこの事業に関わっていきたくと話す方もおり、今後の継続的な関わりを見込める人材を発掘することができた。

●長岡造形大学との連携も今年度から実施し、学生による来場者参加型コンテンツ「いままちに神様生まれる」という取り組みと三条市立大学UNIBOX（ゲーム製作サークル）の制作ゲームのコンテンツの連携により、来場者参加型コンテンツの質が高まった。また、若く新しい知見を得ることができ、今後のコンテンツ検討の足掛かりとすることができた。

## 今後の展望と課題

●当該事業への参加をきっかけとして、気軽に今町商店街の店舗に足を運んでもらい、継続的に商店街を訪れる人を増加させていく。

●事業への出店を通じ、地域と関わりを持つことで、空き店舗等への出店のきっかけ作りとする。

●長岡造形大学から引き続き協力を得ることで、「若者」「よそ者」の視点からの新しいアイデアを得たり、外部団体と地域の関係性を創出していく。

●アンケート結果を活用した次年度以降の事業の改善・継続を図る。



大風伝承館 スタンプラリー会場

やさしいおもちゃ・Mucca・chocola



さとう八百屋

In 米与米穀店



造形大学と三条市立大学UNIBOX  
の連携した来場者参加型コンテンツ  
（石の蔵内でのゲーム実施体験）

# 松浜地区コミュニティ協議会

基本情報	取組のきっかけ（地域課題等）と目的
<p>【活動地域（人口・世帯数）】 新潟市北区松浜地区（10,835人, 4,291世帯）</p> <p>【実施期間】 令和7年6月～</p> <p>【活動概要】 地元の新潟医療福祉大学との協働で、①学生活動拠点づくり、②朝市・商店街イベントへの出店、③県外大学も招いたフィールド合宿の実施（5大学合宿）。</p> <p>【地域外人材・団体】 岩手県立大学、京都産業大学、福知山公立大学、神戸大学</p>	<p>【地域の現状と課題】 歴史ある六斎市と商店街の衰退、若者の流出と、特に20代・30代の若者の地域参画意識の希薄化。</p> <p>【目的・目指す姿】 新潟医療福祉大学の学生を「新たな地域の担い手」として位置づけ、商店街に学生の活動拠点をつくり、まちのイベントを企画し実施する。取り組みを通じ、当事者意識高く地域に参画し、卒業後においても“第二の故郷”のように地区にかかわる若者を育成する。</p>
取組の内容	取組の成果
<p>①学生活動拠点づくり 商店街にあるシニアの通いの場（こらぼ家）を借りて、学生団体による活動拠点としている。当協議会、商店街組合ならびに朝市組合との連携事業を、以下とおり多数展開した。</p> <p>②各種イベントの企画・実施とモバイル屋台制作 こらっせ松浜市・キテミテキタクの出店、松浜夜市、こどもハロウィン、クリスマスイベント等のイベントプロデュース。モバイル屋台については、上記の企画・出店経験をふまえ、コンセプトと仕様を検討し、2月末日までに完成。次年度からの活動は学生が“自前”の屋台で。</p> <p>③5大学合宿 令和7年9月11日～13日において、商店街・朝市エリアにおいて、フィールドワーク型の合宿を実施。連携大学である新潟医療福祉大学をはじめとし、岩手県立大、福知山公立大、京都産業大、神戸大から学生44名、教員5名が集まり、地区の持続可能性に関する解決策を提案。このうち、実現可能性の高いアイデア（右の今後の展望欄に記載）について、地元の新潟医療福祉大学の学生団体が、当協議会等との連携のもと、地域に実装していくことになっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新潟医療福祉大学の学生・教員が、まちづくりの研修会(3回)、まちづくりの会議・交流企画(5回)、まちのイベント(8回)に参加。次第に企画段階からの参画の機運も生まれ、ゼロから企画プロデュースした事業も1つある。当協議会の役員やまちの親子等住民と触れ合った経験には得難いものがある。</li> <li>本事業をきっかけとして、新潟医療福祉大学に学生18名からなる学生でまちづくり団体「HAMATTE」が誕生し、今後は自律的な活動展開が期待できる。</li> <li>県外大学も交えたフィールド合宿から得られた提案事項(下記)も、今後実施していくことになっている。</li> </ul>
	今後の展望と課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こらぼ家」を引き続き学生団体の活動拠点とし、次年度以降もまちづくり活動を継続する。事業で制作したモバイル屋台を活用し、地区の子ども・若者を巻き込み活動を拡大していく。</li> <li>5大学合宿から提案をふまえ、当協議会内に“子ども・若者ワーキンググループ”を発足させ、新潟医療福祉大学の協力のもと、活動の発展を図っていく。</li> <li>同大の学生まちづくり団体「HAMATTE」ならびにその指導担当である鎌田剛教授のゼミ生との連携を強化していく。</li> </ul>



＜学生が朝市に出店＞



＜浴衣あるきイベントのプロデュース＞



＜学生活動拠点で親子イベント＞